

センター便り

公益財団法人浅香山病院 臨床研究研修センター
〒590-0018 大阪府堺市堺区今池町3丁3番16号
TEL : 072-229-4882 (代)
ホームページアドレス : <https://www.asakayama.or.jp>



当院リハビリテーション部の歴史について

副院長・リハビリテーション部長 たけうち やすひろ 武内 康浩

理学療法室の歴史

初めて浅香山病院を訪れたのは1979年(S54)、理学療法士学生としての臨床実習でした。当時の理学療法室は理学療法士が2名です。浅香山病院の旧中央館(4階建て)の3F(産婦人科の分娩室跡)の部屋が控室で、その横の病棟食堂と4Fの病室(6人室)を改装したのが物療室と訓練室です。

1970年代半ばに大阪大学医学部附属病院の人事で勝浦温泉病院から中根医師が整形外科の立ち上げにやってこ

れ、同病院の泉理学療法士と一緒にこられたのが始まりです。

1980年(S55)に旧西館が新築され、整形外科外来を含む理学療法センターとしてスタートしました。私が1981年(S56)に入職した頃は、まだ「理学療法士」の資格も全国で3千人程度(現在は年間1万人が国家資格を取得)、養成校も全国で10数校程度と非常に少なく、理学療法士はまだ専門職として広く認知されていない時期でした。(当時の当院精神科のOTは1名でした。)

回復期リハビリ病棟の誕生

1990年代にはリハビリ医療の制度的整備が求められ、1996年に国は「回復期リハビリテーション病棟入院料」制度創設、当院では2003年(H15)一般科内の旧香病棟(前精神科開放病棟→一般科医局→整形外科・小児科病棟として利用していた。)に1F, 2Fに合わせて58床の回復期リハビリ病棟が開設されました。これが、現在のリハビリテーション室拡充のきっかけとなります。一般科にはOTがいなかったのが精神科OT室より1名出向してもらっていました。



旧香病棟 1F, 2F 回復期リハビリ病棟
3F 介護療養病棟



1998年(H10) PT室スタッフ

リハビリテーション室の誕生

1997年(H9)老健みあ・カーさが開所し、私は翌年から2005年(H17)まで専従として出向しました。長年の出向の後、病院に戻ると、急性期病棟や介護療養病棟(旧香病棟3F)、B館2階(精神・身体合併症病棟)、訪問リハビリ、老健みあ・カーさなど当時の理学療法室の職域は多岐にわたっており、私は浦島太郎状態でした。その後、室長となり、人材の確保に努めることとなります。まず、ST(言語聴覚士)の必

要性が高まっていたので、2007年(H19)にはSTを2名採用し理学療法室の所属としました。当時の東館1階の配膳室跡を改修し、言語聴覚室を作りました。

2010年(H22)には部署をPT(17名)・OT(6名)・ST(4名)を含む27名とし「リハビリテーション室」と改め、新たな組織の発足です。その年には回復期リハビリ病棟365日リハビリを開始しました。

新病棟へ

待望の新病棟の建設が始まり、旧東館取り壊しの間、ST室を旧手術室に移し、仮設の控室で30人ほどが、すし詰め状態で過ごす中、2013年(H25)に竣工を迎えました。移転した際は、新たに地域包括ケアシステムを実現するための地域包括ケア病棟、緩和ケア病棟でのリハビリを新たな分野として取り組むこととなります。当院のリハビリテーションの特色は急性期から在宅まで途切れることなく、シームレスにサービスを継続できることに重点を置いてきました。



2008年(H20)
PT室スタッフ

私が若い頃の経験です。脳梗塞発症後で座ることも困難な患者さまが、数か月の訓練を継続し介助歩行が可能になって自宅退院をしました。その後、その患者さまのもとに訪問に行く機会がありましたが、退院後短期間で寝たきりとなり、会話も困難で認知症も発症した現状を見て強い衝撃を受けました。介護保険制度もない時代のこ



現在 リハビリテーション部（老健出向含む）
理学療法士 35名 作業療法士 17名
言語聴覚士 5名 計 57名



リハビリテーションセンター

とです。病院の中だけで完結するのがリハビリテーションではないことを痛感した出来事です。これが、現在のリハビリテーション部の職域の拡大につながってきたのです。

歩み、進めてきたことを実現できたことが、この病院で40年以上勤務できてきた原動力であったと思っています。医療の進歩と制度の変遷とともに病院も様々な変革を強いられてきました。今後もリハビリテーションに対する需要が増え、内容もより細分化されてくるものと思われます。リハビリテーションは多職種連携が最も重要なチーム医療です。より専門性の高いサービスを提供し、地域に貢献できる専門家を育てる部署として発展していけるよう、今後も皆様のご指導ご鞭撻をお願いいたします。

学術活動について

内科部長/浅香山病院医学雑誌編集委員会委員 こじま かずや 小島 和也



今日も無事に仕事が終わろうだと思っていたとある夕方に院内PHSが鳴りました。「急になんだらう?」と思いながら出たところ、「センター便りの執筆をお願いしますか?」とのお話でした。経験がある方もおられると思いますが、ドキッとするいわゆる苦手な仕事の依頼です。歳をとるに従ってこのような仕事をいただく機会が増えたため少しは慣れましたが、執筆活動に関連した仕事の依頼があるとプレッシャーを感じるので得意になったわけではないと再認識しました。「人前での発表や文章を書くのが苦手」という人は多いと思いますし、自分自身もその一人です。

今回の執筆活動のきっかけになったのが、「Effect of Thyrocervical Artery Embolization for Mediastinal Hemangioma with Pleural Effusion」という論文タイトルで『Internal Medicine』へ掲載いただいたこととなります。内容を少し紹介させていただきますと、胸水を伴った縦隔血管腫という稀な疾患に関する報告で、画像上非常に血管が豊富な腫瘍性病変であり術中の出血リスクが高いと考えました。術前にカテーテルによる血管塞栓術を行ったところ胸水の減少を確認し、出血を抑制することで安全に切除し得た症例です。英語の論文ということもあり、周りに驚かれることもありましたが、論文掲載に至るまで紆余曲折があり非常に長い年月を要しました。専攻医時代にこの症例に関して緊張しながら地方会で発表させていただいたのですが、せっかくだから論文を書いてみてはどうだろうか?と上司より何度も提案を受けていました。日常業務が忙しいということもありましたが、そもそも論文を書いた経験がなく、「いつか書きます」と答えはするものの、内心は「英語論文なんて書いたこともないし、そもそも日本語でも無理だろう。書けるわけがない。」「今は忙しいからいつか気が向いたら書こう」と思い続けて数年が経ちました。大学院生時代に博

士論文をなんとか完成できたということもあり、昨年一念発起して執筆を再開しました。少し書いては挫折をするということを繰り返し、気づけば症例を経験してから10年弱経過してしまいました。手間がかかった論文が完成し、いざ掲載されると普段の仕事とは異なる達成感がありました。昔の上司にも報告しましたが非常に喜んでいただき、諦めずに頑張ってよかったと思いました。

日常臨床において学術活動は避けることも可能かもしれませんが、論文や学会発表は医師であれば専門医や指導医を取得するために必要となることが多く、特に論文数が足りず申請できないという話も散見されます。研修医になった頃、論文は教授を目指す人が書くもので自分とは縁がないものと思っていましたが、指導いただいた外科部長から「仕事で形に残るのは論文だから書きなさい」、「子供に残せるのは論文だ」と言われ、いつか自分も書いてみたいと思った記憶が蘇ってきました。例え社会人1年目であっても大人になって失敗すると恥ずかしいと思う気持ちも理解はできますが、皆さんの上司も初めからうまくこなせたわけではありません。急に発表や論文作成ができるようにはならないので研修医～専攻医のうちに発表や文章を書く仕事があれば積極的に向かってほしいと思います。何度も経験すれば必ず慣れてきます。論文の書き方や統計学など普段と全く違う勉強ができますし、臨床とは違う達成感があるので是非頑張っていたきたいと思います。学会発表に関してもスライド作成だけでなく、限られた時間内の発表の練習や質疑応答に備えた勉強など入念に準備をしてから本番に臨みますので学びも多いと思います。時には厳しい指摘や質問もあるかと思いますが、普段関わることのできない専門の先生からの意見もありますので終わってみれば貴重な機会になります。

なお、当院では2022年から浅香山病院医学雑誌が創

刊され、幅広い職種の方から投稿されています。様々な視点から投稿されており、力作揃いで読み応えがありますので是非手に取っていただければと思います。また原著論文だけではなく症例報告やエッセイなど幅広い範囲で投稿が受け付けられており、とても良い機会になりますのでお気軽にチャレンジいただければと思います。当院は複数の大学の関連病院であり医師の教育機関となって

おりますが、医師だけでなく学会活動や講演などに取り組みられている方もおられますので興味のある方は積極的に上司に相談していただきたいと思います。

ここまで偉そうに書きましたが、この執筆をしながら書きかけの論文があることを思い出したので、また書きたいなと思います。

研究や投稿を振り返って～『浅香山病院医学雑誌第3号』優秀論文賞・優秀エッセイ賞受賞～

理事長賞（優秀論文賞）

「手術中の自重関連褥瘡と医療関連機器褥瘡発生の現状と対策」

浅香山医学vol.3 : 77-81, 2024

中材・手術室
師長 川崎 恵理子

この度は、数ある論文の中から優秀論文賞にご選出いただきありがとうございます。ご指導をいただいた篠崎和弘先生はじめ、編集委員会の皆様方に心より感謝申し上げます。

本論文は、2015年に手術看護認定看護師の資格を取得してから手術室で発生した自重関連褥瘡と医療関連機器褥瘡に対して現状と対策を示したものになります。

私は看護師として働いてきた多くの時間を、手術室での看護実践に費やしてきました。その中で常に大切にしてきたことは、「手術切開創以外の傷は作らないこと」でした。「手術で切開する以外の傷を加えないためにも患者様の安全を第一に考え、看護で介入できる最大限のことをしっかりと実践し患者様を守る」という信念のもと日々実践し、またスタッフへ指導を行ってきました。手術室は病棟と環境が異なり、体位変換ができないことや長時間の同一部位の圧迫により褥瘡が発生しやすいと言われています。さまざまな悪条件が重なり、褥瘡ができて

しまった症例に対しては術後訪問での観察と病棟看護師への継続看護の依頼、そして診療科医師を含め看護師、臨床工学技士で原因検索と予防策を立て再発防止に努めてきました。この栄誉は私1人の力ではなく、これまで褥瘡予防に耳を傾けて力を貸してくれた諸先生方や手術室スタッフの皆様のお陰です。他職種の様々な目線から知恵を出し合い思考錯誤しながら現在に至っています。

2024年12月には当院で初めてとなる胸腔鏡下食道癌手術が行われました。9時間にも及ぶ長時間手術であり、特殊体位と術中の体位変換が必要になることから、藤原副院長と麻酔科医師、体位係のスタッフが中心となり体位シミュレーションを重ね手術当日に臨みました。今後とも日進月歩する医療に柔軟に対応し、患者様が手術の侵襲を最小にとどめ、良好な手術の結果を導くことのできる環境を提供するという手術室看護の本質を見失うことなく、チーム医療の更なる強化を図り、日々看護の実践に邁進していく所存です。

委員会賞（優秀エッセイ賞）

「感情労働 –「感情労働」によせて–」

浅香山医学vol.3 : 125-127, 2024

精神科
部長 眞本 晶子

この度、優秀エッセイ賞を賜りました。「感情労働」というテーマをいただいて、このエッセイを書くことになった際、何が書けるだろうかと思案しました。他の方々のエッセイを読ませていただいて着想を広げることができ、関連図書を読み、ようやく原稿を提出した記憶があります。実際に雑誌の形になり、このような賞をいただき、驚いていますし、機会を与えていただいた篠崎先生に改めて感謝したいと思います。

この機会に、自身の拙文を読み返しました。提出前には何度も読んだはずの文章でしたが1年経過すると、すでに自分の文章ではないように感じました。年齢とともに記憶力が衰えていることも関係していますが、テーマを与えてもらって纏まった形になっていたものが、再びほどけて、散らばったということかもしれません。

テーマに沿って自分の頭のなかを探索して考えを文章にする試みは、臨床場面で患者さんに伝える言葉を探す作業と似ているように思います。臨床場面で患者さんに何かを伝えるときには、精神医学の知識、これまでの臨

床場面での経験、プライベートの経験、そして目の前の患者さんとの様々な交流、記録などから得られること、それらの夥しい情報が、私の中に濃淡はありながら存在し、そこから、今、目の前の患者さんがどういう状態にあるようなのか、どのような言葉が必要かを浮かび上がらせる作業をするように思います。患者さんとのコミュニケーションは、瞬間瞬間、待たなしで進んでいきますし、情緒的なエネルギーも大きく、その場でじっくり考えることが難しいこともしばしばです。文章を書く場面では、時間をかけて、自分のペースで冷静に考えることができる、わからないことがあれば調べものもできる、という利点があります。

ですので、文章を書くということは臨床場面で日々使う考える力、探索する力を成長させる作用があるように思いました。改めて書くほどのことではないかもしれませんが、エッセイを書くこと、振り返る機会をいただいたこと、での発見がありました。ありがとうございました。

■学会・研究会

種類	発表(演題)名	発表者名	所属	会名	発表年月日
1	特発性血小板減少性紫斑病に対しPVPを施行した1例	島田 久生、李 昌治、浅井 省和 他	泌・透	第13回PVP研究会学術集会	2024/5/18
2	食餌性イレウスをきたした血液透析患者の1例	島田 久生 他	泌・透	第69回日本透析医学会学術集会・総会	2024/6/7
3	腎移植レシピエントの前立腺肥大症に対し選択的前立腺蒸散術を施行した1例	島田 久生、浅井 省和、鶴崎 清之 他	泌・透	第39回腎移植・血管外科研究会	2024/6/13
4	腎移植患者の前立腺肥大症に対しPVPを施行した1例	島田 久生、李 昌治、浅井 省和、鶴崎 清之 他	泌・透	第101回大阪透析研究会	2024/9/15
5	食餌性イレウスを発生した高齢透析患者の1例	島田 久生、李 昌治、浅井 省和、鶴崎 清之 他	泌・透	第101回大阪透析研究会	2024/9/15
6	心的皮膚の破綻・修復の場としてのローションパッチ法—「美術館で一人ぼっち」のローションパッチ体験から混乱の共有へつながった青年期症例—	山岸 礼門	心	日本ローションパッチ学会第28回大会	2024/10/19
7	精神科救急病棟での多職種連携～看護師が体験する困難の理由とそれの対処: 質的研究	中島 悠太、大石 健司、住 貴浩	看	一般社団法人日本精神科看護協会大阪府支部「看護研究発表会」	2024/10/25
8	新人看護師の心の健康の変化についての認識～WRAPクラスへの参加を通して～	高岡 晃太、寺内 康人、村田 かれん	看	一般社団法人日本精神科看護協会大阪府支部「看護研究発表会」	2024/10/25
9	当院における透析患者のフレイル予防に対して理学療法士の体制の検討	坂口 英隆	リ	第11回日本サルコペニアフレイル学会大会	2024/11/2
10	シンポジウム(認知症疾患における諸症状を高次機能障害の立場から考える 幻覚・妄想) 幻覚・妄想への対応	繁信 和恵	精	第48回日本高次脳機能学会学術総会	2024/11/8
11	左半球優位の神経変性疾患により手話失語を呈した一例	中山 愛梨、土井 茜、繁信 和恵	心	第48回日本高次脳機能学会学術総会	2024/11/8
12	園芸療法の実践場所に必要な環境要素に関する基礎的研究—関西および関東エリアにおける調査—	川村 明代	デ	人間・植物関係学会、日本園芸療法学会2024年度合同大会	2024/11/10
13	心筋シリンチの収集条件の検討	由井 雅規	放	第8回SORAの会	2024/11/15
14	シンポジウム「若年性認知症の診断・治療・支援」	繁信 和恵	精	第44回日本認知症学会	2024/11/22
15	当院における摂食障害患者の転帰について	中川 千幸、碓井 太雄、正木 慶大	精	第37回日本総合病院精神医学会総会	2024/11/29
16	一般科における統合失調症患者の合併症治療でのプロナセン貼付剤の有用性について	正木 慶大	精	第37回日本総合病院精神医学会総会	2024/11/30
17	IgG4関連疾患に合併した気管支喘息に対してDupilumabを投与した1例	小島 和也、櫻井 佑輔、丸山 直美、岡本 敦子、芝善 功行、太田 勝康	内	第104回日本呼吸器学会近畿地方会	2024/11/30
18	メタ認知トレーニングを通して思考パターンに変化が見られたうつ病の事例	川村 明代	デ	第38回大阪府作業療法学会	2024/12/1
19	術後再発したupside down stomachに対し腹腔鏡下修復術及び胃固定・胃瘻造形術を施行した1例	瀧良 知央、橋本 拓朗、佐々木 麻帆、西澤 聡、藤原 有史	外	第37回日本内視鏡外科学会総会	2024/12/5
20	発症初期より道順障害を呈したPosterior Cortical Atrophy (PCA)疑いの一例	中山 愛梨、東尾 康倫、繁信 和恵	心	第29回日本神経精神医学会学術集会	2024/12/6
21	どのような問題に直面しているか—看護師の立場から—	国本 京美	臨	2024年東海大学医学部付属病院がんセミナー「精神疾患をもつ人のがん診療にける臨床倫理」シンポジウム	2024/12/7
22	シンポジウム デイケアの終え方～利用者の地域生活やリハビリのためにできること～	市川 智美	デ	第29回デイケア学会	2024/12/8
23	肝部分切除に対する手術支援画像	立花 淳也	放	第25回南大阪CT研究会	2024/12/14
24	早期診断と認知機能評価のポイント	釜江 和恵	精	Alzheimers Disease Evangelist Program in Osaka	2024/10/5
25	Prodrom期からのレビー小体型認知症の臨床	篠崎 和弘(座長)	精	第25回近畿老年期認知症研究会	2024/10/26
26	一般演題A3群「看護管理②」	齋藤 雄一(座長)	看	第31回日本精神科看護専門学術集会(山口)	2024/10/26
27	堺市認知症疾患医療センターの取り組み～診断後支援・家族支援まで～	釜江 和恵	精	愛媛大学医学部附属病院認知症疾患医療センター講演会	2024/10/26
28	最新の認知症治療～アルツハイマー病について～	釜江 和恵	精	堺市認知症疾患医療センター研修会	2024/10/29
29	Japanese Horticultural therapy workshop	川村 明代	デ	第8回アジア太平洋作業療法学会	2024/11/5
30	精神衛生	篠崎 和弘	精	第227回メンタルケアスペシャリスト養成講座 一般社団法人メンタルケア協会	2024/11/10
31	認知症4大疾患、せん妄における症状や対応方法等	三好 豊子	看	大阪府社会福祉事業団「令和6年度 堺市病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修・看護職員認知症対応力向上研修」	2024/11/13
32	退院支援につながる明日から使える患者中心のケアモデル	島津 聖子	看	一般社団法人日本精神科看護協会大阪府支部「退院調整研修会」	2024/11/16
33	病院看護師の立場から訪問看護師との連携について(看・看連携)	中尾 百合子	看	一般社団法人日本精神科看護協会大阪府支部「精神科訪問看護研修会」	2024/11/17
34	手術を受ける患者・家族の理解とケア	川崎 恵理子	看	兵庫医科大学「認定看護師教育課程(手術看護分野)」	2024/11/19
35	長期入院者の退院支援に取り組みにあたって必要な視点	島津 聖子	看	社会医療法人三上会東香里第二病院「職員研修」	2024/11/19
36	前頭側頭葉変性症の方へのケア	三好 豊子	看	兵庫県社会福祉協議会「前頭側頭葉変性症家族交流会・研修会」	2024/11/26
37	長期入院者の退院支援において必要な視点	島津 聖子	看	一般財団法人成研会結のぞみ病院病院「職員研修」	2024/12/5
38	高齢者のうつ病治療	篠崎 和弘(座長)	精	第4回Psychiatry Seminar	2024/12/6
39	ミニオラル 74/胃・十二指腸良性 症例報告2	藤原 有史(座長)	外	第37回日本内視鏡外科学会総会	2024/12/6
40	医療安全・認知症ケアの充実等	三好 豊子	看	大阪府社会福祉事業団「令和6年度 堺市看護職員認知症対応力向上研修」	2024/12/11
41	ECRS合併喘息患者に対するバイオ製剤の導入	小島 和也	内	重症喘息web講演会	2024/12/12
42	認知症の疾患別ケアの重要性等	稲田 敬子	看	一般社団法人日本精神科看護協会大阪府支部「認知症理解と看護ケア」	2024/12/21
43	精神科病棟の構造と特徴、精神科における隔離・拘束について	高谷 衣美、小瀬 和人、上田 一輝	看	学校法人西大和学園大和大学「精神看護学演習」	2024/12/25
44	「精神医学II」	正木 慶大	精	森ノ宮医療大学 作業療法学科	15回
45	「精神医学」	正木 慶大	精	大阪医専 言語聴覚療法学科	12回
46	「神経・生理心理学」	正木 慶大	精	神戸女子大学 心理学部	12回
47	現場で役立つ神経心理学～心理臨床で神経心理学を活かす、楽しむ～	中山 愛梨(司会)	心	2024年度大阪府臨床心理士会合同研修会	2024/11/17
48	早期介入の社会実装に向けて	篠崎 和弘(プログラム委員)	精	第27回日本精神保健・予防学会学術集会	2024/11/23/24

■論文・著書

※一部期間外のものが含まれています

論文・著書名	著者等(全員)	所属	誌名、巻：ページ、年
1 地域移行機能強化病棟の7年間の検証	谷口 典男、伊藤 久人	精	日本精神科病院協会雑誌、42(11):46-49,2023
2 第7章高齢者の検査Ⅲ電気生理学的検査	篠崎 和弘	精	改訂・老年精神医学講座;総論、日本老年精神医学会編集。ワールドプランニング社2024、117-121
3 Exploring expressed emotion and its influencing factors among family caregivers of dementia people: a 3-month study in Japan.	Xiaoji Liu, Reiko Kanaya, Kazuo Shigenobu, Keigo Takiue, Wenping Mo, Eriko Koujiya, Yasushi Takeya, Miyaue Yamakawa	精	Psychogeriatrics, 2024 Nov;24(6):1238-1244,2024
4 Delirium onset prodromal Lewy body disease: A series of 5 cases	Taomoto D, Nishio Y, Hidaka Y, Kanemoto H, Takahashi S, Ikeda Y	精	Clinical Parkinsonism & Related Disorders 11:100289,2024
5 A multisite observational real-world study on the effectiveness of repetitive transcranial magnetic stimulation therapy for patients with treatment-resistant depression in Japan.	Matsuda Y, Takahashi S, Toi Y, Noda Y	精	Psychiatry Research 342:116263,2024
6 精神科身体合併症病棟の実態—浅香山病院の運用状況—	高橋 隼、東 剛、柳川 宗司、谷口 典男	精	臨床精神医学 53(10):1255-1258,2024
7 精神科作業療法と臨床推論(社会資源)	川村 明代	デ	臨床作業療法NOVA、21:119-123,2024

■主催講演会

※一部期間外のものが含まれています

講演会・勉強会名	演題名	講師名	開催年月日
1 CKD(慢性腎臓病)教室	腎臓病に負けない体力づくり 一体力測定—	三ツ石 一智	2024/10/5
2 第23回浅香山健康セミナー	胃がん・大腸がんを正しく学ぼう!“やっぱり健診受けなあかな—”	藤原 有史	2024/10/19
3 CKD(慢性腎臓病)教室	血液検査データの意味	西川 恵理子	2024/12/7

■研修医による学会・研修会発表

発表(演題)名	発表者名	会名	発表年月日
1 尿路感染症の診断で入院した劇症型溶血性連鎖球菌感染症の一例	雲山 連太郎	第71回プライマリ・ケア合同カンファレンス	2024/12/19

所属:(泌)泌尿器科、(精)精神科、(内)内科、(外)外科、(透)透析センター、(心)臨床心理室、(看)看護部、(リ)リハビリテーション部、(デ)デイケア室、(放)放射線室、(臨)臨床研究研修センター